

Top Interview

トップインタビュー

— 変革に挑む —

まとめ／堀水潤一 撮影／田邊明良

こどもとふれ合った 時間の積み重ねこそが 良い先生を育む

本

校創設者の加藤かつは、東京女子高等師範学校(現 お茶の水女子大学)在学中、倉橋惣三に師事して以降、長く幼児教育に従事してきました。その後、自らが理想とする幼稚園教員の養成を始め、その教育理念としてあげたのは、女性が男性と伍して生きるには経済的自立が必要であり、それには手に職をつけることというものでした。創設者のそうした思いは今に受け継がれ、就職指導には特に力を入れています。かつては結婚を機に現場を去ることも多い職業でしたが、社会的地位や待遇が向上するなか、生涯働ける環境が整っています。学生から「少子化が進むと就職先が減るのです

か」と聞かれることがあります。女性が働かなくては成り立たない社会だからこそ保育の仕事が減ることはない」と説明しています。

高校生から「大学と専門学校の違い」について聞かれることもあります。専門学校は職業訓練で、大学は理論研究に重きを置く、といった線引きは曖昧になっていますが、それでも専門学校は実践第一。「こどもたちと一緒に過ごし成長を見守りたい」という気持ちをもつ人や、こどもと同じ目線で考えられる人こそ専門学校で学ぶべきです。私の揺らぐことのない教育理念は、「こどもとふれ合った時間の積み重ねこそが良い先生を育む」というもの。同一敷地内にある名古屋文化幼稚園をはじめ多くの附

属園を舞台に多彩な実習を用意しているのもそのためです。例えば、登園風景を観察する「おはよう実習」や、こどもたちと昼食を共にする「給食実習」など。園児のリアルな姿をミラー越しに観察する「マジックミラー観察実習」は、コロナ禍における貴重な実習となりました。本校は、2年制の総合こどもコース、国際こどもコースに加え、3年制の夜間コースと長期履修コースも設けています。夜間コースの学生のほとんどは日中、幼稚園や保育園で働き、夜は資格取得のために教室で学びます。体力的に大変な一方、「夜、学生に戻れるのが嬉しい。同じ立場の友人と悩みや喜びを共有できる」という声も聞かれます。

夜間コース(第二部)に加え近年、注目されているのが第三部で、本校では長期履修コースと呼んでいます。実習を含む授業は原則午前中で終了するため、午後は幼稚園や保育園で働く学生が多く、こどもとふれ合う時間もあり、理論と実践の両面で学ぶことができるのが特色です。家庭の事情などで進学を躊躇している高校生には、こうしたワーキング・スタディという選択肢があることも知ってほしい。幼稚園教諭・保育士という仕事は一生を掛けるに値する職業だけに、学ぶことを諦めないでもらいたいと思っています。

名古屋文化学園保育専門学校 理事長・校長 加藤紳一郎



【理事長・校長プロフィール】かとう・しんいちろう●1955年生まれ。慶應義塾大学法学部卒業。名古屋文化学園保育専門学校専任講師、学生課長、教務部長を経て1993年より校長。2000年より学校法人名古屋文化学園理事長。全国幼稚園教員養成機関連合会副会長、愛知県私立幼稚園連盟常任理事、愛知県私立保育園連盟監事などを歴任。

【専門学校プロフィール】1945年名古屋女性文化クラブ創立。1954年名古屋文化学園幼稚園教員養成所(現 名古屋文化学園保育専門学校)開校。愛知県名古屋市。同じ敷地内にある名古屋文化幼稚園のほか、三好文化幼稚園、津こども園、黒笹保育園、ロンドン文化幼稚園、オージーキッズ・マーメイドウォータース幼稚園などの附属園がある。